

氏名	池田 敬子(いけだ けいこ)
職名	准教授
専門分野	急性期看護 感染論
学歴	和歌山県立医科大学大学院医学研究科博士課程修了
学位	博士(医学)和歌山県立医科大学
担当科目	(学部)早期体験実習、教養セミナー、統合実習Ⅰ、統合実習Ⅱ、急性期看護実習、地域連携実習、急性期看護論Ⅰ、急性期看護論Ⅲ、慢性期看護論Ⅲ、保健看護研究Ⅱ、保健看護管理演習
研究テーマ	1. 急性期看護のあり方、ならびに、本学学生への急性期看護教育のあり方についての研究 2. 体外に排出されたウイルスの日常生活環境における伝播力についての研究 3. 組織障害作用は小さく十分な消毒作用を有する新規ウイルス不活化剤の開発と不活化機構の解析
所属学会	日本看護研究学会、日本看護教育学会、日本ウイルス学会、日本看護科学学会、和歌山県立医科大学保健看護学会、日本環境感染学会、日本防菌防黴学会 他
研究業績	<p><著書></p> <p>1. Ikeda K, Yamasaki H, Minami S, Naito, T Irie H, Arakawa T and Koyama.A H : Virucidal ability of arginine and its possible application as an antiherpetic agent. In : From the hallowed halls of herpesvirology. Imperial College Press, 2011.</p> <p>2. 坂口桃子、角谷知恵美、森澤祐巳子、田村直子、川元真理子、山本浩美、池田敬子他: ICU・CCU標準看護計画. 株式会社メディカ出版, 1998.</p> <p>3. 坂口桃子、角谷知恵美、森澤祐巳子、田村直子、川元真理子、山本浩美、池田敬子他: ICU・CCU看護マニュアル. 株式会社メディカ出版, 1998.</p> <p><論文></p> <p>1. Ikeda K, Tsujimoto K, Suzuki Y and Koyama AH: Survival of Influenza A Virus on Contaminated Student Clothing. Experimental and Therapeutic Medicine 9 : 1205-1208, 2015.</p> <p>2. Ikeda K, Yamasaki H, Minami S, Suzuki Y, Tsujimoto T, Sekino Y, Irie Y, Arakawa T and Koyama AH: Arginine Inactivates Human Herpesvirus 2 and Inhibits Genital Herpesvirus Infection. International Journal of Molecular Medicine 30 : 1307-1312, 2012.</p> <p>3. 宮嶋正子、池田敬子、山本美緒、工藤貴子、辻あさみ、山口昌子、上田伊津代、住田陽子、松山明子、鈴木幸子:急性期看護実習における手術室とICU見学実習導入の試みー学生の達成感と記述内容の分析からー:和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 9 :23-32, 2012.</p> <p>4. Ikeda K, Tsujimoto K, Uozaki M, Nishide M, Suzuki Y, Koyama AH and Yamasaki H: Inhibition of Multiplication of Herpes Simplex Virus by Caffeic Acid. International Journal of Molecular Medicine 28, 595-598, 2011.</p> <p>5. 武用百子、池田敬子、森田望、鈴木幸子、志波充: フライトナースが体験するストレスの内容. 日本医学看護学教育学会誌 20 : 8-13, 2011.</p> <p>6. 池田敬子、羽野卓三、本山貢、牟礼佳苗、竹下達也: 高齢者におけるメンタルストレスへの反応性と運動習慣との関連. 日本循環器病予防学会誌 44(3) :141-152, 2009.</p> <p>7. 池田敬子、今堀陽子、坂本由希子、畑野富美、上田伊津代、辻あさみ、上田稚代子、鈴木幸子:急性期看護実習における学生が感じる達成感に影響する要因. 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 5 : 41-47, 2008. 他</p>
メッセージ	<p><活動の紹介></p> <p>感染予防に関心のある学生と共に、国内の主要施設を訪問し、国内外の微生物病の現状や防疫体制、感染予防ワクチン製造などの現状について学んでいます。</p> <p>また、地域貢献として和歌山県看護教育機関連絡協議会の事務局運営に携わり、臨床と看護教育との連携と交流が図れるよう活動をしています。</p> <p><学生へのメッセージ></p> <p>感染対策は昨今の社会状況の中で強いニーズがあり看護職の専門分野を超えて基本的なものとして習得しておく必要があります。今後看護師の果たす役割は大きく、常に新しい知識と実践が求められています。私のゼミでは看護師の立場から微生物とその感染症について現実的な知識を深めるとともに、私たちの身近な疑問を研究課題として取り上げ実験によって明らかにしたいと考えています。そのことを通して、現代医療を支えるEBM(エビデンスに基づく医療)の基本を体験して貰います。</p>
メールアドレス	keiko-i-nc@wakayama-med.ac.jp